



とから、ワインぶどう栽培に向けて、「高山村ワインぶどう研究会」が平成十八年に結成され、本格的な栽培がいよいよスタートしました。

さまざまな英知を結集して。

村内に開設されたワインぶどう展示圃場では、白ワインの代表品種であるシャルドネが植えられ、誰でも気軽に見学し、栽培管理の仕方や棚づくりの方法などを知ることができま。

また研究会には、専門家だけでなく、さまざまな分野の方々が参加し、ワインの醸造や商品化について研究を進めています。栽培についても、新たに農業を始める株式会社に参加するなど、これまでにない農のあり方が広がりはじめています。

「ワインといえば高山村」と言われるようになる日が来るのも、そう遠い将来ではないかも知れません。

地域特性を活かしたワインぶどう栽培

寒暖の差が大きく日照に恵まれた高山村は、おいしい果樹の栽培に適した地。その環境条件を活かして、りんごやぶどうなどの特産品をつくり出してきました。そして今、新鮮なおいしさのふるさことから、新しい特産品が生まれようとしています。

本格的な栽培がスタートしました。

ワインぶどうは、おいしいワインを造ることを目的として改良されてきたワイン専用品種です。生食用ぶどうとは生育の条件や栽培方法が異なりますが、高山村の気候や土壌条件が適しているこ

新しいチャレンジ次々に。 新しい「農」への挑戦。

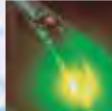


ワインぶどう栽培農地貸借契約・栽培協力協定調印式



そして未来へ

未来へ向けた
高山村のとりくみ


ホタルがいっばいに舞つふるさとへ。

ホタルは自然環境のパロメーターと言われる。水と土と植物からなる、川辺の環境が良好に保たれていない限り繁殖しないからです。そんなホタルが舞つふるさとへの風景を取り戻すために、村内には各地区でホタルの会が設けられ、水路の整備や調査、勉強会などを重ねています。高山小学校では児童と保護者がホタルを通して環境保全の大切さを学ぶ観察会が行われたり、またホタルの成育にやさしい無農薬の水稲栽培への取り組みなども行われています。



村民協働で進める 美しいふるさと づくりへの挑戦。

かけがえない信州高山の
景観を未来へ伝えよう。

高山村は、日本の山里の原風景を思わせる里山や美しく豊かな自然が息づく村。その景観は、村を訪れる多くの人々にも感動を与えています。

そんなかけがえない財産を未来へと受け継いでいくために、村では村制施行五十周年を契機として、本格的な景観づくりに取り組んでいます。

平成十八年には村内の有識者等からなる景観検討委員会が設置され、村民の皆さんのご意見をお聞きしながら、これからの景観計画や景観条例の制定に向けて、真剣な議論が行われています。

松川渓谷をはじめとする上信越高原国立公園の自然景観、扇状地に広がる果樹や田畑の田園景観、そして里山の暮らしを伝える集落景観など、次の五十年、一〇〇年の未来を見据えた取り組みが進められています。



おてんまで地域づくり。

この地域では古くから、道路の整備や清掃、山の手入れなど地域の皆さんが共同で公共的な作業に取り組むことを「おてんま」と呼んでいます。「おてんま」は、その昔、街道や宿駅の整備や荷役に周辺の住民がでた賦役「御伝馬」に由来すると言われていますが、現代風には地域ボランティア、人と自然が共存して暮らしていくための知恵なのです。

高山村では、村民と行政との協働による活力ある村づくりの一環として、平成十七年度から「おてんま支援事業」を実施しています。

主に村民が組織する団体等が自ら行う事業に対して、原材料の支給、機械等の貸し出しや技術的なアドバイスをしています。

新しい高山村の発見と創造へ 産学官連携の村づくりへの挑戦。

高山村を創造表現のステージに、
女子美術大学と連携。

平成十八年四月、高山村と女子美術大学（神奈川県相模原市）、須高ケーブルテレビ株式会社三者が列席し、産学官連携地域文化創生事業の協定を締結しました。

これは、信州高山村をフィールドとして、女子美術大学が授業の一環としての活動を行い、学生の視点から高山の魅力を発見し、表現し、提案していただくという取り組み。須高ケーブルテレビが村内の光インフラ設備などを



を提供するほか、村民と学生とのふれあいの模様を番組化し、内外に発信していく活動も併せて進められています。すでに多くの学生が村を訪れ、それぞれのテーマに沿ったワークショップや交流などのプロジェクトに取り組んでいます。



活力ある商工業の振興をめざして。

高山村では、異業種での共同研究・共同開発を促進するなど特徴ある地元企業の育成事業や、特産品等の販売を通じ観光PRを図る「ふるさと秋の市」をはじめとした地元事業者が力を合せて行う地域振興活動への補助事業などを通して、頑張る皆さんを応援しています。

また、現在3企業が進出している県営日滝原産業団地に、優良企業の誘致をさらにすめ、自主財源の確保、雇用機会の拡大に努めています。



日滝原産業団地

開かれた行政をめざして、
ケーブルテレビで情報発信

平成十五年に開局した須高ケーブルテレビ「高山村民チャンネル」。高山村民総出演をめざして各地区の紹介などを行い、村民が主役の番組づくりが評判です。

また村議会の模様を生中継したり、番組を通じ、村の施策をわかりやすく紹介するなど、さまざまな行政情報を発信するメディアとしても大切な役割を果たしています。



ふるさと秋の市